

以上で、田原洋子議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩いたします。

再開を２時半、２時３０分といたします。

〈午後２時１６分 休憩〉

〈午後２時３０分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。〔１５番 田原 実君登壇〕

○１５番（田原 実君）

創生クラブ所属、田原 実です。

６月議会で、私は明日の地域医療の確保を訴えました。今回は、看護師確保とまちの再生のほか、市長の施政方針と行政改革、市民理解について質問します。

これは、市民からのご意見で気づいたことですが、市長の掲げる縮充のまちづくりや市民の声を聞いて進める参加のまちづくりが、人口減少社会での住民福祉の増進や市民サービスの充実となることを市民の皆様からご理解いただく必要があるということからでございます。市長選挙のことを持ち出してすいませんが、市民の皆様それぞれに、応援した候補者の訴え、マニフェストは理解したが、そうでない場合には、これからのご理解になるということと捉えております。

では、通告書に基づき、１回目の質問をさせていただきます。

質問１、久保田市長の施政方針と行政改革及び市民理解について。

- (1) 人口減少社会のまちづくり、「縮充のまちづくり」「参加のまちづくり」に期待する市民のために、その理解と展開を、概念にとどまらず具体策としてどのように打ち出し、進めていきますか、伺います。
- (2) 「縮充のまちづくり」「参加のまちづくり」で市役所職員の意識と行動はどう変わっていくべきか、もしくはどう変わってほしいと市長は考えますか伺います。また、関連する団体、組織への対応は、「縮充のまちづくり」「参加のまちづくり」でどう変わっていくと市長はお考えですか伺います。
- (3) 「縮充のまちづくり」と「参加のまちづくり」を議会とはどのように進めていきますか、伺います。
- (4) 理事者の役割分担、組織改革、目標値の設定などについては、どうお考えですか伺います。

質問２、糸魚川の地域医療の現状と課題、市民の理解と行政対応について。

- (1) 看護師確保策について伺います。
- (2) 病院運営の財源確保について伺います。

(3) 不足する医療への市民の声、説明会等で聞かれた声及び行政の対応について伺います。

(4) 通院における病院利用者、高齢者への公共交通配慮について伺います。

質問3、北陸新幹線開業がもたらしたものは何か。

糸魚川駅及びえちご押上ひすい海岸駅周辺の整備と活用並びに駅北大火後の町なかの再生とにぎわいづくりについて。

(1) 糸魚川市立地適正化計画と「縮充のまちづくり」「参加のまちづくり」は合致していますか、伺います。

(2) まちなかの再生とにぎわいづくりについて、担当する部署はどこ（誰）ですか、伺います。

(3) 北陸新幹線開業がもたらしたものは何か。10年間の新幹線効果の検証と、市民、特に若者に期待されるこれからのまちづくりについて伺います。

(4) えちご押上ひすい海岸駅周辺整備における地元地区要望への対応、石のまちやジオパークの推進における押上ひすい海岸来訪者への対応、通勤・通学への対応、バス交通との連携、地元住民や高校生のまちづくりへの参加について伺います。

(5) (仮称) 駅北子育て支援複合施設建設の計画見直しにおける用地の活用策とビル解体工事について、限られた時間の中での取組について伺います。

(6) (仮称) 駅北子育て支援複合施設建設用地は、市長が言うとおりの汎用的な活用としていただきたく、以下提案しますので、市長のお考えを伺います。

① 私がいう(仮称) 駅北プレイパークのアイデア募集を行っていただきたいと思います。
これについては「一般財団法人公園財団WEB公園・夢プラン大賞募集」をご参照願います。市長のお考えを伺います。

② 旧市役所跡地の海望公園、旧消防署跡地の駐車場などを含む一団の土地活用として、駅北大火後に絵にしてもらった子供たちのアイデアをもう一度検証したり、市民からのアイデアである新幹線駅からも見えるランドマークとしての展望タワー、日本海に張り出す展望台、海水を引き込んだ水遊び場の設置を考慮していただきたく要望いたします。市長のお考えを伺います。

③ 生活に欠かせないコンビニの誘致など、近隣住民の要望、遠方からの来訪者が期待される特徴ある図書館・資料館、温浴施設の設置など、糸魚川出身者からいただく意見への対応をお願いします。市長のお考えを伺います。

(7) 駅から海へ向かう「通り」の活用、通りを使って都市の中に「軸」をつくることについて私から提案します。具体的には、建築や設計業務に携わる市内の若者たちから意見を聞いて実現する、あるいは建築や都市を空間から考える専門家からアイデアを出していただき実現する、密室でなくオープンな、市民誰もが参加できる協議の場を設けていただきたいと思いますと考えますがいかがですか、伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

田原 実議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、3 地域の区長並びに自治会代表者の方と懇談し、私の考える基本理念や公約について説明させていただきました。

今後は、小学校区を単位として、13 地区で懇談会を開催する中で、私の考えを説明し、市民の皆様からご意見をいただくこととしております。

2 点目につきましては、これまでに職員との懇談会を 5 回開催しております。

職員に対しましては、前例にとらわれることなく、新たな視点でチャレンジすることを求めています。

また、関係団体の皆様とは、10 年先のありたい姿を共有し、限られた資源を有効に活用するため、選択と集中を意識しながら共に考え、共に行動してまいりたいと考えております。

3 点目につきましては、議員の皆様とも対話することが重要であり、お互いの考え方を受け止め、よりよい方向に向かって取組を進める必要があると考えております。

4 点目につきましては、行政組織の再編に向けて検討を行っているところであり、様々な課題に対応できる体制を目指してまいります。

また、私自身、先頭に立ち、市政運営を行うとともに、次期総合計画の策定に当たり、新たな目標を定め、課題の解決に向けて取り組んでまいります。

2 番目の 1 点目につきましては、医療職への関心を高める小中学生出前講座、看護学生への修学支援、地元就職へつなげる医療系大学等への訪問などに取り組んでおります。

2 点目につきましては、物価・人件費高騰に見合った診療報酬の引上げに加え、国・県からの財政支援が必要であると考えております。

3 点目につきましては、救急医療体制や診療機能の維持、地域医療構想の早期実現など、いただいたご意見を受け止め、持続可能で、安全・安心な医療体制の構築に向け、着実に進めてまいります。

4 点目につきましては、先日の地域医療に関する市民説明会でもご意見をいただいております、市民が安心して通院できる環境づくりについて、対応を検討してまいります。

3 番目の 1 点目につきましては、急激に進む人口減少や超高齢社会において、目指す方向は同じであると考えております。

2 点目につきましては、産業部を中心に、庁内全体で取り組む課題であると考えております。

3 点目につきましては、産業面や観光誘客の面で効果があったものと捉えており、今後も若者が「住み続けられる」、持続可能なまちづくりを展開してまいります。

4 点目につきましては、地元の皆様のご要望やご意見を踏まえ、地元の高校生などからの参画を呼びかけながら、駅周辺整備など押上地区のまちづくりに、地域の皆様と一緒に取り組んでまいります。

5 点目につきましては、11 年 4 月までに整備を完了したいことから、8 年度から 10 年度の間に設計業務委託と工事を実施する予定であります。

6 点目につきましては、多くの人が日常的に関わり、使えるように取捨選択しながら、汎用性のある広場の在り方を模索したいと考えております。

7 点目につきましては、議員のご提案について、建築士会糸魚川支部の皆様にもお伝えし、検討

してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

質問1、久保田市長の市政と行政改革について、2回目の質問です。

縮充のまちづくり、参加のまちづくりを掲げ、当選された久保田市長。6月議会で市長からは、財政改革は可視化、見える化して、市民に理解と協力を求めていく。行政の問題解決には縦割りではなく、ワンストップでの対応をしてみたいとお答えいただきました。これが、久保田市長になったら役所が変わったねと市民に言っていたような動きとなればよいのですが、その辺り、4月24日からこれまで約4か月半を経過して、市民の反応など、市長に実感はありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

市民との対話等に関するイベントや集会等に直接出向き、まずは気安く意見交換ができる素地づくりを務めてまいりました。それらを今後、生かしたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

チーム久保田のプレーヤーは、市役所職員全員です。教育現場でチームを育ててきた市長が、行政組織でその手腕を発揮することが市民の期待です。

ただ、スポーツと違い、役所の動きは、結果は分かりづらいものがあると思います。そのため、これまでにない手法・手段を市長は考えておられますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、庁内においては、不定期であったとしても、それぞれの部署に直接出向いて、業務の進捗を確認させていただきたいと思っております。

また、市民活動、それぞれの現場においても、出向きながら、その評価をお聞きしながら、一致度を確認していきたいと。また、それをフィードバックして、市民の直接市民サービスへの取組に

ついて、職員と共有させていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

理解いたしました。新しい糸魚川市政を担う副市長と教育長、お二人への市民の期待も大きいと思います。縮充のまちづくり、参加のまちづくりで、職員の意識と行動はどう変わるべきか。関連団体への対応は、理事者の役割分担、組織改革、目標値設定についてはいかがですか、副市長と教育長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

今、何点か言われたんで、全てちょっと答えれるか自信がないんですが、まず、理事者の役割分担というふうにおっしゃられました。市長には、市内外のバランスを取って公務に当たってほしいということで、市外ばかりでなくて、市内のほうに目を向けて対応していただくようにというふうにお願いをして、市外には私が出向くような形で対応を今取っております。

それから、市長が就任されて、部・課長会議というのが毎月あるんですけども、その中で市長と私のほうから、考え方や思いを職員に伝える場面がございます。そういった伝えたものについては、全職員がグループウェアで共有することになるんですけども、その中で私、申し上げているのが、例えば組織であれば市長をトップとして、組織というのは便宜的に分けているだけであって、市長の思いを酌み取った仕事をするべきである。そうすると縦割りでなくて、その隙間にある仕事を職員がしっかり拾って対応するとか、1つの課で収まらない課題についても、そういう対応をしてほしいと、そういった意識を持って仕事をしてほしいということを申し上げます。

また、職員の中には地域活動、例えば小学生の指導だとか、ボランティア活動だとか自治会、PTAなど活動してる職員も結構いるんですけども、そういった場に出向く、市の説明会とか懇談会だけでなく、そういった場面に出向くことで地域の皆さんから意見を聞いて、それを政策や事業に反映することに取り組んでくださいということを申し上げます。

それからもう一点、縮充の関係からいきますと、やはり公共施設、1市2町が合併して今20年たつんですけども、公共施設の管理の関係で申し上げますと、全国平均で市民1人当たりの床面積にならずと全国平均の2倍という形になっています。こういったことから、老朽化している施設あるいは役割を終えた施設については、整理・統合をしていく必要があるというふうに思っていますし、権現荘などの例のように、民間でできるものは民間に譲渡すると、そういった形で進めていきたいというふうに思います。

それだけ言うと、ただ縮まるばかりですので、そういったことで、新しい財源を生んで、新たな事業等に取り組んでいくと、そういった姿勢で職員に取り組んでほしいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

何点が聞かれていますけれども、ちょっとまとめてというような形になるかもしれませんが、お聞き取りいただきたいと思います。

久保田市長が掲げている重点施策の2つ目が、教育の推進ということで大きな柱を掲げておられます。私の役割としましては、教育行政を担う責任者ですので、糸魚川市の教育の充実のためにどんなことが課題で、その課題解決のためにどのような方向が求められるのか、それを課長・補佐会議等々を通しまして、熟議しながら1つずつ進めていく、事務の執行を確実に進めていく、それが大きな要素だと私は思っています。

その中でもって、糸魚川市で掲げている教育の大綱、大きな目標がありますけれども、我が糸魚川で人づくり、その具現をみんなの力を合わせて進めていくんだということの根本的な部分については、適宜、確認させていただいておりますし、0歳から18歳までの子ども一貫教育のさらなる充実という問題意識も常に持ち続けながら、今現在仕事を進めています。取り組みましてから15年というふうな月日を積み重ねてきましたけれども、その成果と課題を踏まえながら、さらに充実という形でもって、糸魚川の教育のこれからの学校の在り方というふうな部分の環境整備について、大きなかじを取らなければいけない、この時期に來ています。そんな意味合いで、緊張感を持って、しかもこれからの教育の在り方ですので、子供たちの夢や希望を育むために、どういう体制が必要なのかということを考えながら、今、計画のほう、方針を含めて、適宜進めている最中でございます。

新たな学校の教育環境整備っていいますというと、やはり地域づくり、地域コミュニティづくりというふうな部分の要素が大変大きな割合を占めてきます。だとすると、教育委員会の内部だけの検討課題ではなくって、これは庁内にある関係部署、関係諸機関というふうな部分の方々との英知をディスカッションしながら進めていく必要があるというふうに思ってます。当然、地域の方々、保護者の方々、議員の皆様方、それぞれに適宜適切に情報提供しながらミーティングを重ねていく中で、これからの糸魚川市の教育の体制づくりについての方向が出るというふうに思っています。

気持ちを一つにしながら、市長、副市長とのミーティングも重ねながら、これから大きな方向転換になっていく大事な時期ですので、1つずつ丁寧に進めていきたいというふうに思っております。全力で課題解決に向かって取り組んでいきたいというような覚悟です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

トップが替わって、副市長、教育長のサポートがあって、糸魚川は随分変わったねと言われるの

は1年先でいいと思うんですね。しっかり取り組んでいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

ここで、久保田市政の市民理解のための提案をさせていただきたいと思います。

動画の配信はいかがでしょうか。

私は、これまでの市長の市民との対話集会を見て、聞いて、なるほど元高校の校長先生だと思いました。釈迦に説法ですが、自分の考えを多くの方に分かりやすく伝えることは、リーダーの役割です。

私は7月に島根県浜田市に政務調査に行かせていただきましたが、市長の久保田章市様は、浜田市のご出身で、法政大学教授をお務めの後、市長になられた方です。市民への情報出しに、市役所ホームページから「扉を開けて…市長室からのメッセージ」という15分の動画を毎月配信し、この7月で120回目、市長自ら新型コロナ関連情報と浜田市の水産業の現状と企業誘致を詳しく説明して、市民に伝わる動画です。

市長には、事前にお伝えしてあります。糸魚川でも取り組んではいかがでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

私も海洋高校時代に、能生ケーブルテレビがよく取材に来ておりまして、町の皆さんには、また、おまん映とったよとか、こんなことやとったねというふうにして言う声をかけられて、いただきました。そういう部分においては、情報発信というのは動画等も含めて大事なことだと思っております。

ただ、単なるパフォーマンスで終わることのないように、これから1年、やっぱり市民の皆様の場所に出向いていって、いろんな声を聞きながら、どんな情報発信をすればいいのかという部分を考えながら、これから先、どういう形で情報発信すればいいのか、また皆さんの知恵を拝借しながら、また庁内で議論を深めて対応してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

縮充のまちづくり、参加のまちづくりを市長、職員、市民と一緒に進めてまいりたいと思います。

本日の質問の新潟県が進める地域医療構想や、糸魚川総合病院のダウンサイジング、そして、糸魚川市の立地適正化計画と駅北まちづくりの戦略、まさに縮充の取組、参加のまちづくりです。市長は、これまでの行政を継承しながらも、新しい視点、切り口を持って進めていると私は思います。

そのようなことを踏まえて、質問の2への再質問へのご答弁をお願いいたします。

市内3会場での地域医療説明会、担当課の準備と対応はよかったと思います。私は評価いたします。

さて、参加された市民は、どう捉えたとお考えですか。

新聞報道では、早期実現を求める声と不安の声が聞かれたとありました。各会場の主な質疑と参加者数を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

各会場の人数から申し上げます。

糸魚川会場が34名、午後からの青海会場が28名、31日の午前中の能生の会場が28名という参加者でございました。

主なご意見ですが、参加者の皆様からは、医師、看護師をはじめとする医療技術者の確保でありますとか、高齢者の医療機関への交通手段の確保、それから富山大学との関係性の継続、そういったご意見がありました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

地域医療構想の説明は、よかった。しかし、糸魚川総合病院での救急医療対応が確保され、必要な診療科が維持されるかを市民は理解し、納得できたでしょうか。ここが重要なポイントでしたが、市の答弁では話がすり替わっていたように感じましたが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

話をすり替えたというつもりはございませんで、私の説明の中で、これまで、昨日も答弁させていただきましたが、地域医療構想がなかなか進まない現状の中で、糸魚川総合病院の将来の在り方、姿が、まだ明確に見えてこないものですから、そこで明快な答えにならなかったというふうに思っております。これから先、どんどん議論がされていけば、もう少し具体的にお話しできるようになると思いますが、救急医療体制については、何としても維持しなければいけないというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

延びたという話で、分からないってことなんですね。

新潟県の地域医療構想が進まないの、糸魚川の救急医療が対応できないということなんでしょう。本末転倒というか、矛盾しているというか、あるいは糸魚川の救急は諦めなさいということでしょうか。

地域医療構想は県が進めるものだからというならば、県は何をしているのかということになりますよね。県知事も地元県議も、糸魚川地域医療体制の危機をご存じのはずです。県知事、地元県議が来て、ちゃんと説明していただかないと、市民は納得できません。市からちゃんと伝えて、何とかしてください、お願いします。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

先ほども申し上げましたが、救急医療体制は何としても維持しなくてはならないというふうに考えております。それで、先日、昨日の市長の答弁からもございましたが、知事の要望をしてまいりました。その中で、知事のほうからは、県民が住み慣れた地域で、必要な医療を受けられる体制というものをとおっしゃってまいりました。それを実現していただくためには、まずは県立病院の財政改革、経営改革をしていただいて、巨額な一般会計からの繰出金を減らして、我々の地域に回ってくるような医療政策への財源確保に努めていただきたいなというふうに考えておりますし、これからも、そういったことを県と話してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

それは、県の事情の説明じゃないですか。それ、代弁してるだけです、ね。市民は、救急医療どうなるんですか、それはいつなんですかということを聞いているわけですよ。市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

多くの議員の方から、糸魚川の救急体制についてご質問がございました。私自身としては、主語を糸魚川市というふうにして、直接、知事にお伝えしました。また、国・県への要望についても、全て主語は糸魚川ということで、6市でつくる地域医療の協議会においては、今、課長答弁があったように、全体の財源措置について要望しているんですけども、私自身は、主語を全部糸魚川に変えて、糸魚川はこうである、今後、必要な救急体制医療についてはこうありたいという部分で、一応要望はしてきておりますので、それについては、今度はどのタイミングで、県もしくは知事のほうから、そういう直接のお話を伺えるのかについては、今後また、お話を進めていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

看護師確保策について伺います。

以下、医療関係者から聞いたお話をご紹介します。

看護師は、若い、ベテラン問わず、退職が多い。そもそも看護師になろうとする人がいない。カスタマーハラスメントを苦痛と思う看護師もいる。職場のルールがあるが、患者家族は、それを知らないし、従わない。看護師は、看護の倫理の下、使命感を持って仕事をしているが、ならば患者家族の倫理はどうなっているのかと思う。職場のルール、看護の倫理がなし崩しになっていく中で、看護の仕事ができると思うか。看護師は、患者家族とのコミュニケーションを心がけているが、それでご満足いただけないということか。待たされるとか、玄関で職員に大声を出す例もあるが、一体何がしたいのか。糸魚川総合病院がどうかとは違うのではないか。糸魚川の医療を存続させるには、みんなが我慢が必要なはずだが、それが理解されていないなど、糸魚川総合病院での苦情への対応、その解決に向けて、行政がやるべきことがあるのではないかと問われています。ぎりぎりのところで頑張る病院従事者のために、解決すべき大きな問題・課題があるのではないですか。

市長は、どうお感じになりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

ただいまの田原議員のご質問については、非常に私自身も悩ましい問題だと思っております。実際、8回程度、8回ですかね、順天堂病院のほうに行ってまいりました。そのほかの病院も、私自身、自分で受診をするとかという経験の中でありますけれども、まず、看護師さんがいて、それで今度、看護助手さんがいて、また、その看護助手さんをまたフォローする今度は、受診科のところで専属的に、いわゆる案内をしてくれるとか、これから何分後に対応しますよという部分をやっていく分担がされていて、非常に患者にとっては楽な、ストレスがたまらない方式があるんだというふうに感じています。

ただ、糸魚川総合病院にあつては、1人の看護師さんが全て賄っているという状況、それをやっぱ市民の皆さんにこういう状況ですと。それをまた、サービスをよくするためには、いろんな意味で人件費もかかるし、皆さんの負担が多くなります。そういう中で共存することは、どういう形になるのかという部分の市民意識の醸成をこれから図っていかなくやいけないと思います。そういう部分で病院当局と、また本庁の担当課と、そしていろんな医療スタッフの皆さんと、そういう部分を話をしながら、できる限り市民の気持ちに寄り添うような場面づくりにしていければというふうに思います。そういう取組も幾つか今している最中だと思いますので、ちょっと私、度忘れしたんですけど、そういう部分は、行政サイドと病院当局との懇談の場、スタッフが研修する場をつ

くっていると思いますので、それらをまた、さらに拡大していけばと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

糸魚川総合病院と糸魚川市の関係は良好と聞いています。なので、糸魚川総合病院と市民との関係も良好となるよう、行政から働いていただきたいと思います。何かよい案はありませんか。それがよい事例となれば、看護師確保につながっていくと思うのですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

私どもにどれだけのことができるかちょっと分かりませんが、市民の方からいただくご意見を糸魚川総合病院にお伝えしています。糸魚川総合病院の皆さんが頑張っている様子を市民の皆さんにお伝えしていくということを、何らかの形でやっていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

ＩＴＯ－ＬＩＦＥという事業で、病院と連携しているようですが、成果はありますか。看護師の仕事だけして、糸魚川にいるわけではないし、暮らしの充実が定着につながり、人を呼び込むことになるので、そこに期待しています。それがよい事例となれば、看護師確保につながっていくのではないですか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

大西企画定住課長。〔企画定住課長 大西 学君登壇〕

○企画定住課長（大西 学君）

お答えいたします。

ＩＴＯ－ＬＩＦＥ事業につきましては、企画定住課が取り組んでおります。

内容につきましては、若者の交流という観点から、縁結び応援企業として、異業種交流の試行的な事業として取り組んでおるものでございます。今回、お互いの職場についてなど、それぞれの立場で意見交換し、新たな交流を創出することを期待したものでございます。そのような観点では、一定の成果があったものと捉えております。

また、糸魚川総合病院におきましては、ＳＮＳで発信していただきまして、病院職員が様々な活

動に取り組んでいることなど、糸魚川総合病院の特色をPRできたものでないかなというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

病院運営の財源確保について、医療の説明会での話と参加者からの質疑は、どのようなものでしたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

参加者の方からのご意見とすれば、糸魚川市が糸魚川総合病院に支出しております各種補助金の合計が、年間2億5,000万とかという金額で、この令和7年度につきましては、3億円を超えている状況でございます。その中で、国等からの財政支援の状況を問われました。そこで、およそ特別交付税では、そのうちの2億円がその対象経費になっているということをお答えしたところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

糸魚川総合病院は、経営危機を訴え、議会にも詳細資料を出してきています。糸魚川医療、県立病院は、県からの大きな支出で経営継続します。

一方、糸魚川総合病院は、単体では採算が取れない。厚生連全体も経営が危うい。それで、市民の命を守るには、資金を準備して、持続していく以外ありません。仮に糸魚川総合病院の赤字を糸魚川市が支えられないということになったとして、赤字をなくすためには、診療科を削るということになります。上越の病院へ行くからいいという市民もいますが、50キロ離れています。市民にとっては、糸魚川総合病院があることが、今は当たり前ですが、その存在はなくなったときに理解されます。地域医療の説明会でも出されるべき話であったと思いますが、なぜそこに踏み込まないのですか。

確かに市からの支出は、議会の承認が必要です。市民への説明会で、おいそれと出せる話はないかもしれません。しかし、この病院存続の危機感を市民にもっと伝えるべきでした。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

先般、県への要望に行った際に、その後、約1時間程度、当該市町村と病院関連の方、当該部長ですね、それとJAの皆さん、会長、そして理事長さん、交えて勉強会をさせていただきました。その際に配られた勉強の資料について、今まさに田原議員が言うように、この資料を基に市民に説明すれば、基本的に市民のほうは、そうなのかというふうに納得できる部分があります。3点ありました。

まず、厚生連の下で、持続可能な形態に縮小する。診療科を縮小していく、そのメリット・デメリット、このデメリットについて、市民が非常に疑問に思っている部分がある。それと、民間病院にそのまま譲渡していくという方策、これについてもデメリットとしてこうです。

特にスタッフ確保ができるのか。地元雇用の創出が、可能性が非常に薄れてくるんじゃないか。それと、残存簿価、いわゆる借金ですね、そういうもの、機材が老朽化する中でおいて、それがどうするのかという部分、手を挙げる民間業者が、果たして糸魚川にいるの、糸魚川へ来る民間業者がいるのという部分、それと、公立化、公設民営化について、そこも含めて、我々、勉強会をさせていただきましたけど、それぞれのデメリットを、私はこれを見るにつけ、これは糸魚川では相当厳しい方策、どの方策を取っても厳しいものになるんだと、私自身、実感しましたので、それを市民に向けてどういう形でデメリットと課題について理解していただくかという機会は、別途設けなきゃいけないなと思っています。今3回やった中において、出てきた課題、それと、これから提示するもの、それをまた整理しながら、市民との対話に努めてまいりたいと思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

市長、ありがとうございました。機会を持ってですね、よろしくお願いいたします。

18年前の旧姫川病院が突然閉院した事件のときは、救急医療を残そうと市民の大きな動きがありました。今回は、じわじわ進んできた危機で、県の地域医療構想で何とかなると市民が思ってしまうのが私は心配です。今日は、そのことを訴えさせていただきます。この点、市長いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

18年前の姫川病院についての問題、そして今、現在残っている糸魚川総合病院の問題、そして、吉田孝太郎先生がおつくりになっている、よしだ病院の問題、そして、開業医の問題、糸魚川には、いろんな部分で解決しなければならない、これから先、本当にどうなるか分からない問題について、たくさん出てきてると思います。現時点では、それが噴出してゐる状態。もうこの時点で後ろがない状態であるという部分の危機感を持っております。そのことをどういうふうにして、県の地域医療

構想があるから大丈夫なんだという部分に持っていけないで、やっぱり糸魚川市独自の医療体制は、こうしたいという部分をきちっと説明しなきゃいけない。それによって、また6市町村、新潟県内の病院の在り方、県立病院の在り方、厚生連の在り方も、2つのところに足場を作って、我々糸魚川市はしていかなきゃいけないって重たい課題はあると思いますけども、でもこれは避けて通れない。明日、もし万が一、糸魚川総合病院がなくなったらどうするかという部分の危機感を持ちながら、対応していくべきだと思っております。

私は、先ほど申しましたように、糸魚川を主語として、どういう形を取ればいいのか、それについてしっかりと考えていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

前回、私申し上げましたし、また、今回の一般質問の中でも、市長のほうからご説明をされておりましたが、繰り返し申し上げますと、糸魚川を上越と富山県に挟まれた医療過疎の谷間にするのではなくて、2つの医療圏域が重なるエリアの真ん中に置くために何をすべきかを考えて、働いてほしいということです。

あさひ総合病院への町からの支出は幾らで、財源はどうなっているか。

黒部市民病院には、高額の手術の機械はあるかご存じでしょうか。

糸魚川から黒部市民病院へ行って分娩された方は何名か、また、数年先はどうなっていくますか。

担当課は、そういうことを常に把握して、市民に分かるようにしていただきたい。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

まず、あさひ総合病院の件でございますが、町からの財政支出、単年度で5億円を超える繰入れをしているというふうに伺っております。それで赤字、単年度で3億円程度の赤字というふうにお聞きしております。

黒部市民病院の件でございますけれども、あの地域、新川地域というんですかね、あの地域での基幹病院になるわけです、黒部市民病院、中核病院になるわけですので、富山県の地域医療構想の中でもそのように位置づけられるというふうにお聞きしておりますし、かなり高度なロボット手術だとか、内視鏡系の手術だとか、あと、人工関節系の何か高度な医療機器も入っているというふうにお伺いしてるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

人口減少が著しい糸魚川市でこそ、地方病院存続のため、診療報酬制度改善を求める政治的な動き、看護職に寄り添った政治を求めるべきと考えます。市長のお考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

診療報酬については、この令和8年、改定に向けて国の動向を注視してまいりますし、これについての要望は、強く要望しておりますので、総務省、財務省関係の要望は、現時点で終わっておりますけれども、それに対してどういう回答がなされるかは、今後、推移されると思います。

また、今度は医療費の負担ということになりますけれども、これから社会保障費とか、そういうものに、逆に今度は、医療報酬が増えてくれば、そっちのほうに国民の皆さんの負担が増えてくるわけですので、そういうものについては、市民の理解、糸魚川市によって診療費が高くなったとしても、逆に、それが功を奏して皆さんの生命、または財産を守っていくもんだという部分に連動しながら説明をしていく必要があると思います。市民負担が増えるということについてのマイナス面は、市民は承知していただくように説明は続けていかなきゃいけないと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

市長、よろしくお願いいたします。

最後に提言をさせていただきます。

先ほども少しお話ありましたが、医療の情報を行政からも出してまいりましょう。

まず、先日の医療説明会の資料、説明、質疑を、誰でも見れる広報活動をお願いしたいと思えます。説明はテロップ付動画にして、編集して、質疑はAIを活用してアニメ化することも考えられます。そうすれば、子供たちも見てくれます。そういったことで、糸魚川の医療の状況をみんなで知り、みんなで守る取組としてまいりましょう。これは提言にとどめたいと思えます。

では、質問の3、まちの再生とにぎわいづくりの2回目の質問です。

（3）の新幹線開業がもたらしたものは何か。10年間の新幹線効果の検証と、市民、特に若者に期待されるこれからのまちづくりについて、担当課より具体的な事例等でご説明をいただければと存じます。

私の着目点は、日本海に一番近い新幹線駅ということで、駅から海までの駅前通りや商店街、市街地がにぎわい、活気づくと思っていましたが、現状そうなっていません。それはなぜですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

新幹線が開業して１０年たちましたけども、大きく影響があったのは、開業して間もなく駅北大火が起こったというのは、大きく影響したものだというふうに考えております。大火からの復旧・復興を中心にまちづくりは進めてきたところではありますけども、ここへ来まして、DONUTSですとかそういったＩＴ関連企業の進出が見られましたり、キャッタービル、最近オープンしました空きビルを改装しての新たな事業の展開、それから、キターレのチャレンジキッチンから出た店舗なんかも街なかのほうに出てきております。こういった変化が徐々に見られてきておりますので、今後も、そういった変化が続いていくものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○１５番（田原 実君）

新幹線開業で、まちが発展してにぎわっていくことも考えられたけど、大火もあったし、なかなかうまくいかなかったんだと。そういった中で、新しい産業の素地もできてきたから、これから期待してくれと、こういうふうに理解でよろしいでしょうかね、はい。

では、（４）えちご押上ひすい海岸駅周辺整備における地元地区要望への対応について、私の着目点は、ヒスイ海岸に歩いていける。乗降客も多く、駅周辺の狭い道路や危険な用水路が改修されて、住民が喜び、観光客でにぎわい、活気づくと思っていましたが、現状そうなっていません。それはなぜですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

これまでも地元の皆様とは、定期的に対話をしてまいりました。今後も対話を続けながら、地域の皆様と一緒に駅周辺整備に取り組んでいきたいというふうに考えているところではありますけども、今現在は、地元の方から、北側の広場のほうに入る進入路が狭いので、そちらのほうの拡幅をお願いできないかということで要望をいただいております。現地を立ち会った上で、今現在、検討をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○１５番（田原 実君）

検討から、早期実行へとよろしく願いいたします。

石のまちやジオパークにおけるえちご押上ひすい海岸来訪者への対応について、海岸の環境のためにトイレは必要です。これは押上駅開業前から地元の要望でしたが、なぜ作らないのか伺います。

それと、通勤・通学への対応には駅の待合スペース、これが必要ということで、冬はホームで高校生が凍えている現状があります。また、バス交通との連携も考えて、地元、押上区では駅前に用地まで準備しましたが、なぜその思いに応えないのでしょうか。

役所は、駅ができるまでは期待させて、駅ができたら何もやらないという印象を私は持っています。高額な1,940万円のトイレを作るのなら、こちらをやってほしかったというのが、地元市議会議員、田原 実の思いであります。海岸には多くの人が来ますし、駅の利用者も増えています。市長、押上駅周辺は、未来を見据えて投資すべき場所だと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

投資をするということは、投資対効果という部分が付随してまいります。今、押上駅、押上のその駅の周辺について、やはり私は、主目的は何なのか、そこをきちっと選択をした上で、そこに何を集中させなきゃならんのかという部分を検討すべきだと思います。現実には、当初のえちご押上ひすい海岸駅、海水浴場が主目的だったのか、石拾いが主目的だったのか、それがあやふやな段階で、人が来るから海水浴場にも石拾いにもなっている。でも本当の主目的は何だったのかと、そこをきちっと私は整理すべきだと思います。それは押上に限らず、いろんな施設の主目的をきちっともう一度再検討して、それに合ったやり方、合った運営の仕方をしていくべきだと思っております。

そういう部分では、えちご押上ひすい海岸駅の主目的をもう一度洗い直して、それに付随した中身にしてまいりたい。高校生がぶるぶる震えてるという状況を私も見ました。そういう中においても、やはりそういう解消に向けては、何らかの対応をしなければ、これから若者が、やっぱり糸魚川に住みたいと思うような気持ちはならないな、残念な気持ちもあったというのは事実です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

市長、今の言葉は、私、押上へ行きますして、皆さんに伝えたいと思います。よろしくお願いします。

残り時間は、糸魚川市立地適正化計画を踏まえての、まちの再生とにぎわいづくりの議論ができればと存じます。

まず、エリアはどこか、市街地の都市機能誘導区域です。駅北子育て支援複合施設建設予定地が今、様々取り沙汰されていますが、あの場所は、どういった位置づけですか、担当課、ご説明願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

都市機能誘導区域につきましては、立地適正化計画のまちづくりの方針が示す、若者・子育て世代が快適に暮らせる中心市街地づくり、これを実現するための中心拠点として位置づけられているエリアだというふうに立地適正化計画では位置づけております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

まちの計画というものを少し振り返ってみたいと思います。

2015年、北陸新幹線糸魚川駅周辺整備計画によりアーケードが整備され、2016年、糸魚川駅北大火後の駅北復興まちづくり計画で、災害に強いまち、にぎわいのあるまち、住み続けられるまち、令和2年から令和6年の駅北まちづくり戦略で、まちなか大家族 つながり、育む、豊かな暮らし、にぎわいのあるまち、住み続けられるまち、まちの推進と実践活動の場所と位置づけられています。担当課、それでよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

アーケードにつきましては、駅前銀座商店街様が整備されたものというふうに認識はしておりますけれども、そのほかの駅北復興まちづくり計画、それからまちづくり戦略につきましては、議員のおっしゃるとおりでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

令和3年、旧東北電力ビルと旧宮田ビルを、市が取得した直後の3月議会で、田原 実是一般質問していますが、子育て支援の施設計画はまだ明確でなく、10月に駅北子育て基本計画を都市政策課が策定。令和4年1月、駅北子育て支援の検討状況の資料に、計画敷地の拡大と複合機能整備を検討と記載。旧東北電力ビル解体費を約5,520万円としました。そして、令和4年12月、駅北子育て支援施設基本計画素案をつくり、令和5年2月、駅北子育て支援施設基本計画案が議会で承認されないままパブリックコメント、設計費、土地代を含む整備費約14億8,000万、運営費年間約5,000万円、民間連携を理由にDBO方式を提案しています。このとき、議会一部から反発があったが、建設運営計画はそのまま進み、令和6年3月議会で、計画見直しが議論された後に採決され、計画は進んだが、解体工事が5回連続で不調となり、入札手を停止。つまり子育て施設の計画が明らかになってから、解体工事不調で頓挫するまでが3年間で、これは全て米田市長のときのことで、副市長、それで間違いないですね、確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

今、田原議員おっしゃるとおり米田市長のときのことでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

その一方で、令和4年8月に大町観音堂で、大町区で取った住民アンケートを基に、近隣住民からの意見・要望を聞く会、同じくキターレで大町区、緑町区、新七区ほか、地元の団体の代表者に向けての説明会があり、市のこども課が前面に出て、参加者に説明をしております。

参加者からは、私たちの声がどこに反映されているのかと不満・意見が出されましたが、市はその後、具体的なことはしていないと私は感じています。副市長、それで間違いないでしょうか。もしこのときの住民意見の反映があったとするならば、それは何だったかということも確認をさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

私の聞いている範囲でお答えさせていただきますが、買物の困難さがあった会合だったかな、そういうふうに私、お聞きしております。その後、今こども課っておっしゃったんですが、企画定住課の担当者が、たしか地元へ入って懇談をしたというふうに聞いていますが、結果として、それが地元の要望にかなっていないという現状があるというふうに認識しています。その買物の問題に関しましては、駅北地区だけでなく全市の課題でありますので、例えば交通手段も含めて、早急に解決をするように今、都市政策課のほうで地区懇談に回って、それを解決しようというふうに今動きをしておりますので、そういった動きで対応をさせてもらいたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

そういう動きはあるんですか。

令和6年までの駅北まちづくり戦略、まちなか大家族でも、子育て施設建設ありきとはなっていません。子育て支援以外の地産地消での買物が便利になることや、高齢者元気でまちづくりに参加できると思っていた被災者住民が、裏切られたとは言わないまでも、どうせ言っても駄目だからとの気持ちを持ってしまったことは、コミュニケーションを欠いた対応として、大きな過失とはい

ませんが、計画の進め方として、大変残念なことだったと思います。

副市長、そういうことだったんですよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

市の計画、いろんな事業をする際に、ご意見をお聞きすることになるんですけども、やはり子育て世代、若い世代の皆さんの人数といいますかね、数が少ないということで、声が上がってきにくいといったような状況があるかというふうに思っています。これまでやっぱり市の施策の中では、高齢者の方が多いわけですから、そういったことを充実して進めてきましたけれども、やはりこれからの糸魚川を担っていく若い世代の方の思いを大事に、そういったところをしっかりと整備していくんだという説明をしっかりとした上で、やっぱり理解をしていただいて整備を進めたかったというのが本音でございます。そのコミュニケーションの取り方が、今、田原議員も指摘されてるところなんだろうというふうに思っていますが、改めまして、いろんな事業をやるときには、しっかり市民説明をして取り組んでいきたい。それから、そういった説明を尽くしても、例えば反対が9割とかですね、そういった事業については、やはり実施が難しいのではないかということについて、市長としっかり相談をしながら、事業実施等については決めていきたいというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

若い方から賛同いただきたかったんだということだけでも、地域住民の皆さん、結構ご高齢でね、なかなかそこがうまくいかなかったという、その話も分かります。

しかしながら、やはり大火の被災者、近隣住民が望むまちなか再生とにぎわいづくりには、汎用的な土地活用を考え直そうという新しい市長の判断は正しいと私は思います。そして今、多くの方がそう考えていると私は思います。市長、今こそ市民の声で、まちづくりです。新しい糸魚川をつくっていきましょう。

子育て支援施設を予定した土地は、立地適正化計画の目標、にぎわいをつくるための利用を考えてまいりましょう。まちをつくりましょう。

海があって、駅があって、駅前通りがあるんですけども、このエリア、これを私はやっぱりまちだと思ってます。このにぎわいづくりをどうするかということだと思います。旧市役所跡地、海望公園、旧消防署跡地、駐車場を含む、一団の土地として活用して、まちの再生を進めてはいかがでしょうか。

近隣住民の要望のコンビニの誘致、遠方からの来訪者が期待される特徴ある図書館、資料館、温泉施設の設置を市民と考えてまいりましょう。これで、エリア全体を活性化する、まちを再生する、私はそういうことでこれから取り組んでいただきたいと思っているんですが、市長のお考えを伺い

ます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、今日ご質問のあった阿部議員からのいろんなご提言も併せて、今回、田原議員の今回のご意見・ご提言については、いわゆる併せ持ったような形で進めていくということが必要なんじゃないかなと今は思っております。

そういう中において言えば、まずは駅北の施設の設置条件、今回の事業における設置条件にしっかりと合致させる必要がある。そこを今度起点として、まちづくりは商店街の皆さんとの協働作業になる。そのための協力が大前提、必要なものとなっておりますので、その協力が得れないようであれば、絵に描いた餅になりますので、そういう部分でいうと、阿部議員のときにもお答えしたように、やっぱり納得解の下で進めていく必要があるんじゃないかと思ってます。お二人のご意見は、非常に貴重な意見だと思って、私自身、受け止めたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

若者と高齢者の意見を一緒にして、まちがにぎわうように、よろしくお願ひしたいと思います。

この4月4日に街なかの区長の音頭取りで、本町通り商店街、近隣住民が集ってのまちづくり懇談会があり、ゲストパネラーの久保田郁夫氏からは、宿場町のDNAを生かすまちづくりのお話がありました。糸魚川の未来を照らすビジョンでした。参加した皆さんが気持ちを一つにしました。今度は市長として、そのお話をここで聞かせてください。皆さんも聞きたいでしょ。久保田市長、お願ひします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えさせていただきます。

確かに私、糸魚川のまち、中心街については宿場町のDNAがあるということで、皆さんにお話を聞いていただきました。

まず、宿場町をつくるということの前提には、ラグビーじゃないですけどOne for All、All for Oneという精神が必要なんです。その精神があつてこそ、宿場町に必要なDNAを取りそろえられる。そこに食料品の売場がある、宿がある、酒蔵がある。そば屋がある。料理屋がある。また、浴場がある。町医者がそこにいる等々、やっぱり宿場町を形づくる上で、そこで働くとか、町民がそこに集うとか、そこに回遊するとかというものが出来上がると思っていま

す。そういうふうなDNAは糸魚川にある。受け継いだDNAを我々は、次の世代の若者たち、子供たちに残していくという責任もあるというふうに考えております。そういう中で、時間があれば宿場町たる部分のまちづくりについてのお話はさせていただきたいと思いますが、One for All、All for Oneという精神を持っていただく市民づくりに、まず、させていただいて、みんなで協働して、まちをつくっていききたいというふうなことでご提案を申し上げたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

高齢者と子供たちが共に学び、交流できる場所、言うなれば、サードプレイスとできるかどうか。高齢者が住みやすく、若者が定着できるような魅力的なまちづくりとできるかどうか。これを市長との対話を通じて、地域住民の意見を反映したまちづくり、宿場町のDNAを生かすまちづくりが進んでほしいと願っております。

市長は、そのような方向で進めていくということによろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

本日ご参加の議員の皆様の一々のご意見、それは市民を代表する声だと思って、真摯に受け止めて、また、それ以外のところで私が直接、市民の皆様との対話を通じて、よりよいまちづくりをしていきたいと思っております。ぜひ皆さんからもご協力をしていただいて、全庁一丸となって取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

私からは、都市計画の視点から、駅から海へ向かう通りの活用、通りを使って都市の中に軸をつくることを提案いたします。なぜそうなのか、市長の知り合いに建築家や都市計画家がおられたら、ご意見を伺ってみてください。

時間が来ました。終わります。

○議長（古畑浩一君）

以上で田原 実議員の一般質問が終了いたしました。

以上で本日の全日程が終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

大変ご苦勞さまでございました。